

高校生になりたい！を

一緒に応援してくれる方募集

一般入試試験日

2月21日(火)

2月22日(水)

合格発表日 午前9時

3月3日(金)

2次募集試験日

3月13日(月)

合格発表日 午前9時

3月15日(水)

しています。

障害があっても高校生になりたい今年も県立高校を受験します。

受験にあたり支援を必要としております。どなたかお力を貸していただける方がいらっしゃいましたらお願いいたします。学生さんも歓迎です！

受験時の介助者募集

受験するために介助者の方が必要です。コロナで予定していた介助者が濃厚接触になる可能性もあるため、出来るだけ多くの方に受検介助をお手伝い頂ければと思っており、受検介助者を募っております。

左記日程

(一般入試、および2次募集)

詳しい内容は下記までご連絡ください。

志願高校 浦安南高校 時間 9:30~

一般入試:1日目 国語 数学 英語/2日目 理科 社会 面接

2次募集:午前 学校設定検査 午後 面接

※学校及び県教委と一緒に行っていただける方も募集中！

『パルレ』は障害があっても、医療的ケアがあっても地域の学校に行きたい人を応援する会です♪

【問合せ】パルレ 代表 雑賀(SAIGA)

✉ sakusaku5sakura@gmail.com

教育新聞 記事

高校の定員内不合格 障害がある人を阻む壁 # 3

重度の障害があったり医療的ケアが必要だったりする子どもたちが、地域の公立学校に通うケースも少しずつ増えてきた。しかし、入試がある高校で、そうした子どもたちを受け入れることには、高い壁がある。その壁は、校舎のバリアフリー対応や介助者の配置などの問題だけではない。「共に学ぶ」の第3回では、定員割れとなっているにもかかわらず、障害のある生徒が入学を断られてしまう、高校の「定員内不合格」を取り上げる。

「定員内不合格」に苦しむ当事者たち:美佳さんの場合

千葉県に住む雑賀美佳さんは、今、高校浪人をしている。最初に受験した全日制の県立浦安南高校は、前期試験、後期試験、2次募集のいずれも不合格。後期試験と2次募集は「定員内不合格」だった。

翌年は、障害のある生徒を受け入れたと聞き、県立浦安高校を受験。しかしこちらも結果は「定員内不合格」だった。美佳さんは医療的ケアが必要ではあるが、小学校、中学校と地域の公立学校に通い、中学校では途中から通常学級に在籍。修学旅行も他の生徒と一緒に参加することができた。そんな学校生活を送っていた美佳さんにとって、高校に通うことはごく当たり前の選択だった。

母親の貴子さんは「受け入れない理由は『適格者主義』。親にしてみれば、この言葉に苦しめられ、自分を責めてしまう。どうして目の前にいる子どもに、学習する機会を与えてくれないのだろうか」と憤る。

「定員内不合格」によって浪人をせざるを得なかった雑賀美佳さん

高校側の柔軟さに欠ける対応は、受験前から始まっている。貴子さんが「学校見学からジャブを打ってくる」と感じたように、エレベーターのない校舎なので、2階に上がるのを手伝ってほしいと事前に頼んだときも、高校側の反応は消極的だったという。こうした高校や県教委の対応に、貴子さんは無力感を覚える。「定員内不合格には理屈がないと思う。特別支援学校や通信制の高校に入ればいいとも言われるが、なぜ普通の全日制高校に入れないのか。高校側でも、たとえ校長に理解があっても、教員で反対する声が上がると難しいし、そもそも定員割れが起きていない高校では、この問題に無関心だ」

この春も、美佳さんは3度目の高校受験に臨む。もし入学がかなえば、中学校の同級生と先輩・後輩として再会するかもしれない。浪人したことで、美佳さんは社会とのつながりも細くなってしまった。どうして3年間も諦めずに挑戦し続けるのか。美佳さんの声にならない言葉を、貴子さんがくみ取って次のように答えた。

「高校生になりたい。制服を着たい。教室にいたい。だってみんな、(高校生に)なっているんだもん」重度の障害があり、医療的ケアを必要とする優太郎さんと美佳さん。どうしてこの2人には、これほどまでに違う結果が生まれてしまったのだろうか。(引用:教育新聞社記事より)